

第46回 802 ちず楽会

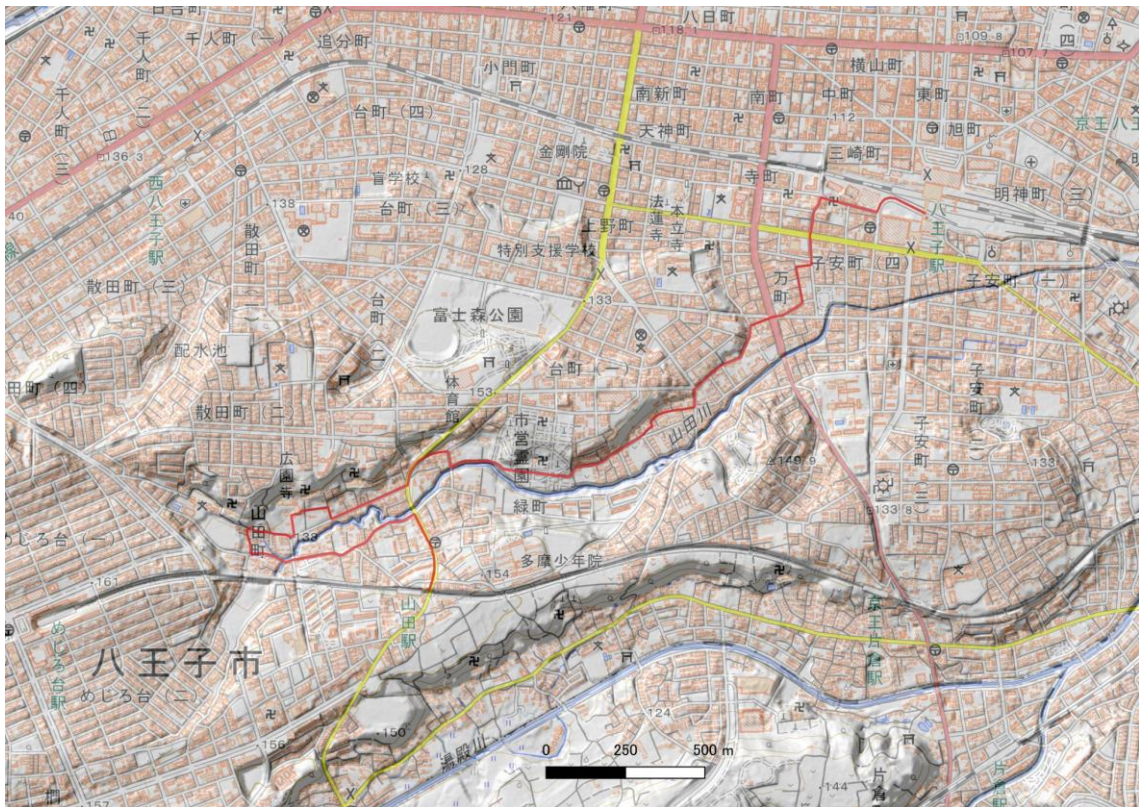
日時：2025年5月25日（日）13:00 集合

集合場所：京王山田駅改札前 改札出口付近

散策コース：京王山田駅→山田川源流付近→広園寺→山田川沿い旧道→萬福寺→万町→子安町→興林寺→JR八王子駅

明治期の道が残る山田川谷沿いの道を歩きます。山田川の源流は現在めじろ台団地ですが、元は南北に別れた谷が入っており、団地ができる前この谷は水田になっていました。山田川はめじろ台から八王子駅南部に続く台地を刻んで東流しており、この谷沿いには鎌倉・室町時代創建の古い寺院が残っています。

山田川周辺の地形



【兜卒山（とそつざん）広園寺（こうおんじ）】

臨済宗南禅寺派の寺院。入口には「兜卒山広園寺」の文字が刻まれた石柱が建っている。山門前の道沿いの台地下には、広園寺に関係のある寺が並ぶ。

広園寺は、康応元年（1389年）8月、大江広元の後裔である片倉城主大江師親が峻翁令山を招聘して創建したとされるが、開基については大江師親の子道広、大江氏惣領家（時広流）

嫡流長井氏 5 代長井貞秀の次男長井広秀など他にも諸説ある。いずれにしても片倉城主の長井氏による開基であることは間違いなさそうである。寺の周囲は住宅だが、板塀に囲まれた寺域に入ると別世界になる。杉木立の中に建つ建物は東京都の有形文化財に指定されている。歴史を感じさせる巨木の桜、一段高い本殿の庭には枝垂桜の枝が目につく、本殿の裏庭には台地の湧水を利用して作られた庭園がある。山門と総門の間の西には八幡神社が祀られている。

総門 - 天保元年（1830 年）再建、桁行一間・梁間一間、一重で切妻造。

山門 - 三間一戸、二重門、入母屋造で、室町時代から伝わる寺額が掛けられている。

仏殿 - 文化 8 年（1811 年）再建、桁行三間・梁間三間、一重、寄棟造。

鐘楼 - 桁行一間、梁間一間、一重、宝形造で、応永 4 年（1397 年）及び、応仁 2 年（1468 年）の旧銘及び、慶安 2 年（1649 年）の改鋳銘を持つ鐘がある。

【摩尼山（まにさん）万福寺（まんぶくじ）】

真言宗智山派の寺院で、天福年間（1233 年～1234 年）、諏訪大社大祝兼北条氏得宗被官諏訪盛重の子清海によって開山された。清海は鎌倉幕府の伝手を頼りにこの地で草庵を作った。それがこの寺の起源という。その後室町時代前期に恵鑊が再興したと伝えられ、江戸時代は幕府から寺領 3 石を与えられている。

明治時代になり一時住職が不在となるなど衰微したが、1913 年（大正 2 年）に南清孝泉が再興した。現在の本尊は大日如来だが、かつての本尊は阿弥陀如来とも薬師如来とも伝えられている。しかし、これらの如来像は、今は行方不明になっている。

【佛法山（ぶつぼうさん）徳善院（とくぜんいん）興林寺（こうりんじ）】

浄土宗の寺院で佛法山徳善院と号す。開基は西山九郎兵衛で、天文 12 年（1543）年に本蓮社願譽が開山となって創建したという。

（新編武蔵風土記稿による興林寺の縁起）

（子安村）興林寺

除地、六段二十四歩、小名宿子安にあり、浄土宗瀧山極楽寺の末、佛法山徳善院と號す、開山本蓮社願譽弘治三年丁巳八月廿五日の遷化なり、本堂六間四方、本尊彌陀を安せり、本堂の後に舊き寶塔に似たるもの破壊してありこれは昔大久保石見守が、越後の上杉謙信が建置しと云、右燈籠を此地に持来れるなりと、其後大久保が家断絶せしゆへ彼石燈籠も取捨となりしかば、ここの境内へ移せしなりと寺傳にのこりおれり。

○弘安の板碑

興林寺境内には、弘安の板碑がある。この板碑は歴代住職の墓地に頭部が少し見える状態で埋まっていたものを大正の中ごろに掘り出し、現在の位置に保管するようになったといわれている。碑面には大日悉地真言（だいにちしつちしんごん）が記されており、全国的にも稀少な板碑（高さ 111cm 幅 36cm 厚さ 5cm 建立 弘安 6 年（1283）6 月 26 日）である。